

# 令和2年度 伊丹創生検証会議結果

資料2

## 基本目標Ⅰ さらなる安全・安心を実現するまち

評価対象施策	I-1	I-2	I-3	I-4
	-	○	○	-

施策名	I-2 安全な自転車利用推進施策	担当部局	都市交通部
平成31年度の課題	<p>自転車関連事故件数については増加傾向にあり、人口1万人あたりの自転車関連事故件数は県下ワーストとなっている。平成31年度は、従来からの交通安全啓発活動や交通安全教室に加え、市内事故多発地点において伊丹警察と合同でトラフィックカルテット作戦と銘うった自転車安全啓発活動を10月より実施している。また活動を開始してから日が浅く、今後も継続して行うことが必要である。</p> <p>駅前放置自転車等台数については、目標値に対して実績は上回るなど順調に推移している。</p>		
次年度以降への対応等	<p>自転車関連事故対策としては、伊丹警察と合同で悪質な自転車利用者に対する取り締まりや交通安全啓発活動を推進する。市内事故発生地点及び事故状況を分析・データ化し、効果的かつ重点的な啓発活動を行うことや、新たな取り組みとして、青色回転灯装備公用車を活用した機動的な啓発や、自宅でも視聴できる動画を活用した啓発も行っていく。</p> <p>放置自転車対策としては、放置自転車数の低減は下げ止まっており、今後はこれを維持する観点から定期的な調査を行い、自転車撤去と啓発を進める。</p>		
検証会議での評価	評価	1. 非常に効果的であった	3. 効果があった
	○	2. 相当程度効果があった	4. 効果が低かった
<p>「自転車関連事故件数」が目標を下回っており、実績値においても県下ワーストとなっていることは大きな問題である。「自転車関連事故件数」の減少に向け、警察と連携を強化するとともに、事故データの分析等による効果的な啓発活動に取り組むべきである。</p> <p>「駅前放置自転車等台数」対策事業は効果があらわれており、継続して実施していく必要がある。</p>			

施策名	I-3 健康長寿施策	担当部局	健康福祉部
平成31年度の課題	<p>健康づくりに意識して取り組んでいる人の割合は、目標値には至らなかったものの過去最高となり、自ら健康行動を取れる市民は確実に増えてきている。</p> <p>男性の健康寿命は取り組み当初より目標を達成しており、更に年々延伸している。一方、女性の健康寿命は平成29年をピークに徐々に下がりはじめ、平成31年度に初めて目標値を下回った。一般的な健康づくりと合わせて、介護予防やフレイル予防への取り組みの周知が必要である。</p>		
次年度以降への対応等	<p>幅広い世代が健康づくりに取り組めるよう、「いたみ健康チャージポイント事業」を推進する。誰もが楽しく健康づくりに取り組めるよう、いたみ健康づくり応援団の協力を得て魅力的な特典を準備するとともに、ポイントメニューには、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、自粛生活を求められる時期であっても家庭で取り組むことのできる「いきいき百歳体操」や「筋トレ」を取り入れることで介護予防やフレイル予防を推進し健康寿命の延伸を図る。</p> <p>併せて、新たに市内各所でいたみまちかど測定会を実施し、多くの市民が健康づくりに取り組みやすい環境を整える。</p> <p>また、スマホを活用した健康づくりのため、令和2年度中にICTを取り入れた事業を検討し、令和3年度実施に向けて準備する。</p>		
検証会議での評価	評価	1. 非常に効果的であった	3. 効果があった
	○	2. 相当程度効果があった	4. 効果が低かった
<p>「健康寿命」は女性の実績値が平成29年度より年々減少傾向となっている。原因の分析を行い、目標達成に努める必要がある。</p> <p>「健康づくりに意識して取り組んでいる人の割合」は目標値との乖離が大きくなっている。新型コロナウイルスの感染拡大による自粛生活が、健康意識にどのような影響を与えるか注視することが必要である。また、「いたみ健康チャージポイント」については、健康づくりに取り組んでもらいたい明確なターゲット設定を行うとともに、ターゲットに応じた実施手法を取り入れるべきである。この取り組みを継続・拡大していくのであれば、市民の健康意識と行動に効果的な影響を与えているのか、説明できるよう検証しながら進めるべきである。</p>			

# 令和2年度 伊丹創生検証会議結果

## 基本目標Ⅱ 未来を担う人が育つまち

評価対象施策	Ⅱ-1	Ⅱ-2	Ⅱ-3
	-	○	○

施策名	Ⅱ-2 特色ある教育施策	担当部局	教育委員会	
平成31年度の課題	<p>平成31年度全国学力・学習状況調査結果の分析に基づき、「主体的で対話的で深い学びの実践に向けた授業改善」、「誰一人取り残さない取組」「保幼小中連携」に取り組む必要がある。全国学力・学習状況調査結果は、中学校においては上昇傾向にあるが、小学校において目標値には届いていないことから、継続した取り組みが必要である。</p> <p>全国体力運動能力・運動習慣等調査結果では、小学校男子及び中学校男女は、全国平均を上回る結果であった。また、小学校女子は全国平均をわずかに下回る結果であった。悉皆となった平成25年度以降、小学校は男女ともに年々体力が向上しているが、持久力と巧みな動きに課題が見られた。また、新型コロナウイルスの影響による臨時休業に伴い、体を動かす機会が失われ、多くの児童生徒が運動不足となった。</p>			
次年度以降への対応等	<p>今年度から小学校学習指導要領が全面実施、令和3年度から中学校学習指導要領が全面実施となることに合わせ、「育成すべき資質・能力」が培われるよう、「主体的で対話的で深い学びの実践に向けた授業改善」、「誰一人取り残さない取組」、「保幼小中連携」に取り組む、家庭との連携の上、学力及び学習状況の向上を目指す。</p> <p>1人1台のタブレット端末の整備等によるICTを取り入れた個別、グループ別学習等、個々に合わせた効果的な活用を進めるとともに、家庭学習支援への活用を検討する。併せて、教員のICT活用指導力を向上させるための研修を実施する。また、新型コロナウイルス感染症の第2波に備え、オンライン学習の実施や授業動画の配信等、子どもたちの「学びの保証」の支援体制を整える。</p> <p>今後も、体育授業開始時においてサーキットトレーニングや補強運動など、児童生徒の発達段階や各校の実情に応じた取り組みを計画的・継続的に実施する。また、感染症対策を講じながら、運動の「質の確保」と「機会の確保」、「意欲の向上」の3つの観点から家庭と学校が連携し、計画的、持続的に取り組む。</p>			
検証会議での評価	評価	1. 非常に効果的であった	○	3. 効果があった
		2. 相当程度効果があった		4. 効果が低かった
<p>「全国学力・学習状況調査結果」、「学校は保護者の願いに応えていると感じる人の割合」、「子どもたちの学力の向上への満足度」が目標値を下回っている。今後新たに実施される新学習指導要領による取り組みを積極的に実施するとともに、家庭と連携した家庭教育支援に努めるべきである。</p> <p>また、今後強化が進められるICT教育においては、通信環境に格差が生じないよう、公共施設の通信環境の整備など多様な方法を用いて、家庭の通信環境に左右されない取り組みに努めるべきである。</p>				

施策名	Ⅱ-3 地域への愛着増進施策	担当部局	市民自治部、教育委員会	
平成31年度の課題	<p>地域コミュニティの基盤強化として、地域自治組織の設立や地域ビジョンの策定、地域総括交付金の交付に取り組んでいる中、現在、移行準備中の地域に対して積極的に情報提供等を行っており、今後も継続した取組が必要である。</p> <p>この取組にあわせて、地域に愛着や誇りを感じてもらえるよう、学校や学校運営協議会の取組を積極的に広報することを通して、区域内の全住民に魅力を伝えることが必要である。</p>			
次年度以降への対応等	<p>地域自治組織の設立及び地域ビジョンの策定を全小学校区で進めていく中で、まちあるき等により地域への愛着や誇りを感じる人が増加することを目指す。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の予防対策で新しい生活様式に沿った地域活動が求められる中、地域に根差した夏祭りや見守り活動、マスク販売会や地元飲食店応援企画などの独自の活動を広報誌やSNS（Facebook）で市内外に積極的に発信し、地域への愛着心高揚を目指す。</p> <p>また、引き続き、学校運営協議会の協議等を通じ、学校・地域・家庭がより密に連携し、地域活動への児童生徒の参画を図る。</p>			
検証会議での評価	評価	1. 非常に効果的であった		3. 効果があった
		○	2. 相当程度効果があった	4. 効果が低かった
<p>地域組織づくりや学校運営協議会への積極的なはたらきかけが行われており、事業は概ね順調に進んでいる。KPIが示す通り効果があらわれてきている可能性がある。SNS等を活用した情報発信を継続するとともに、家庭の通信環境や高齢者への対応も含めた検討を併せて行うべきである。</p> <p>また、「伊丹市に愛着や誇りを感じている人の割合」については、世代や地域性も含めた分析を行うなど、地域に応じた柔軟かつ効果的な取り組みを行うべきである。</p>				

# 令和2年度 伊丹創生検証会議結果

## 基本目標Ⅲ にぎわいと活力にあふれるまち

評価対象施策	Ⅲ-1	Ⅲ-2	Ⅲ-3	Ⅲ-4	Ⅲ-5	Ⅲ-6	Ⅲ-7
	○	○	-	-	-	○	-

施策名	Ⅲ-1 まちのにぎわいづくり施策	担当部局	都市活力部、総合政策部 都市交通部、健康福祉部	
平成31年度の課題	<p>「中心市街地来街者数」は、目標を上回っており、様々なイベントの実施や魅力ある店舗の出店により、中心市街地でのにぎわい創出に繋がった。</p> <p>「中心市街地空き店舗数」は、新たに空き店舗となった数、2年以上空き店舗となっている数、いずれも平成30年度に比べて増加し、特に地区別では西台地区が毎年増加し、業種別では飲食・サービス業が増加した。空き店舗数の減少に向け、新たな事業を検討する必要がある。</p>			
次年度以降への対応等	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響で自粛してきたイベント等について、感染防止対策を講じた開催に向け、取り組みを支援する。</p> <p>また、来街者数の増加・空き店舗数の減少に向けた、効果的な事業等を盛り込んだ「第3期伊丹市中心市街地活性化基本計画」を策定し、当該基本計画に基づく事業を実施していく。</p>			
検証会議での評価	評価	1. 非常に効果的であった	○	3. 効果があった
		2. 相当程度効果があった		4. 効果が低かった
<p>「中心市街地来街者数」は目標を達成しているものの、新型コロナウイルスの感染拡大により、今後長期的な影響が懸念される。</p> <p>「中心市街地空き店舗数」が目標値を下回っている。通りに面した1階店舗は埋まっている可能性もあり、データの見方・取り方にも配慮が必要である。今後は店舗の経営維持という観点から、空き店舗となる原因の詳細を分析し、商店組合への働きかけ等地区別の効果的な支援策の検討が必要である。</p>				

施策名	Ⅲ-2 シティプロモーション施策	担当部局	総合政策部	
平成31年度の課題	<p>「住みたいまち伊丹」のコンテンツについて閲覧者視点での精査が必要な時期に入っている。コンテンツの内容や見せ方の整理が必要である。</p>			
次年度以降への対応等	<p>「住みたいまち伊丹」のコンテンツや市PR冊子「いたみをみたい」の改訂をホームページのリニューアルと併せて実施する。</p> <p>「新しい生活様式」に添った情報発信の手法を用いて、WEB媒体に軸を置いた効果的なPRを行う。</p>			
検証会議での評価	評価	1. 非常に効果的であった	○	3. 効果があった
		2. 相当程度効果があった		4. 効果が低かった
<p>「シティプロモーションコンテンツ閲覧数」は、目標値を下回っている。</p> <p>「住みたいまち伊丹」のコンテンツのリニューアルに合わせて、市外に住んでいる人たちに興味をもってもらえるようコンテンツへの効果的な誘導等を検討すべきである。</p> <p>また、新しい生活様式の1つであるリモートワークの普及は、伊丹をアピールする好機と捉え、積極的にPRすべきである。</p>				

# 令和2年度 伊丹創生検証会議結果

## 基本目標Ⅲ にぎわいと活力にあふれるまち

評価対象施策	Ⅲ-1	Ⅲ-2	Ⅲ-3	Ⅲ-4	Ⅲ-5	Ⅲ-6	Ⅲ-7
	○	○	-	-	-	○	-

施策名	Ⅲ-6 しごと創生施策		担当部局	都市活力部
平成31年度の課題	<p>企業立地支援制度については、目標値以上の申請件数を維持するべく、引き続き企業訪問等により積極的にPRする必要がある。</p> <p>起業支援受講者数については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でコミュニティビジネス創業支援講座を中止したことで大きく減少した。</p> <p>新規事業所数については、平成29年度公表値に過去の調査で把握していなかった事業所が計上されていたため、実績値に大きな増減があった。</p>			
次年度以降への対応等	<p>引き続き企業訪問等を行い、企業立地支援制度を積極的にPRする。</p> <p>起業支援講座の参加者数の増加に向けて、受講者のニーズに合った講座を実施する。</p> <p>上記事業を含めた、新規創業にかかる各種施策を伊丹商工会議所等と連携し、適切に推進する。</p>			
検証会議での評価	評価	1. 非常に効果的であった	○	3. 効果があった
		2. 相当程度効果があった		4. 効果が低かった
<p>「企業支援講座受講者」は目標値を下回っている。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大による影響で定員の制限や講座の中止による受講者の減少が予想されるため、参加が容易なオンラインによる開催を検討すべきである。</p> <p>また、当面は新規創業が困難な経済状況が続くことが予想されるため、事業継続支援策を検討すべきである。</p>				